

際フォーラムで開かれる「イル・ジャパン」展で大々「プレミアム・テキスタ」的に訴求する。

コヤマインターナショナル

19春夏に綿・和紙投入

備後燃系の「備和」で

生地商社のコヤマインターナショナル(浜松市)は19春夏に向け、和紙系使用の新作生地を投入する。選定したのは備後燃糸(広島県福山市)のオリジナル和紙系「備和(びんわ)」。

同社は遠州産地の産元商社である古山(浜松市)の関連会社で、リネンを軸とした生地を備蓄販売

する。常時備蓄する約100品番のうち、リネン100%が7割を占め、リネン複合を含めると9割を超す。

しかし、今回の和紙系シリーズは和紙系と綿との複合。「リネンと和紙だと高価になってしまふ」ことが理由で、綿・和紙の売れ行きも見ながらリネン・和紙の投入を判断

する。

綿・和紙として用意するのはフランネル、ガーゼ、グログランの3品番で、和紙系の特徴である軽量性、通気性、少ない毛羽、吸水性、エコロジ―性などを訴求する。燃糸、製織、染色加工がいずれも国内という国産の価値もアピールする。タグやカラー名も和テイストにこだわった。

18春夏から試験的に投入したが、国内にとどまらず海外からの引き合いもかなり強いという。5月9、10の両日に東京国